

移住者インタビュー⑦

栗原市 地域おこし協力隊

人口減少や高齢化などの進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とする総務省の制度です。



左から 中川 理絵さん（宮城県仙台市出身。移住前は研究室助手）
桑原 里さん（埼玉県出身。移住前から東北大学大学院生）
長尾 隼さん（島根県出身。移住前は嘱託の研究員）

栗原市地域おこし協力隊の3人に聞きました。

栗原市は「平成20年岩手・宮城内陸地震」や「東日本大震災」といった2度にわたる大震災によって甚大な被害に見舞われました。この震災の記憶と経験を風化させずに後世に伝えるために、栗駒山麓で生じた地質滑りや多くの大崩落地を新しい地質遺産ととらえて、豊かな自然環境や農村文化のすべてをジオパークとして学術研究、防災教育、さらには観光に活用しようと進めています。栗原地域おこし協力隊は、その栗駒山麓ジオパーク構想を市内外に発信する役目です。今回はそのメンバーとして活躍する3人に移住体験をお聞きしました。

「移住する前に不安だったことはなんですか。」

長尾さん「島根県から来たのですが、冬の寒さが心配でした。

ちよつと驚いたのはプロパンガスの料金体系ですね」

中川さん「あ、私も仙台市にいた頃は都市ガスだったので驚きました。移住定住サイト「来てみらいん！くらしたい栗原へ」は物件の検索に利用しましたよ」

「移住してみたら驚いたことはありますか。」

桑原さん「言葉が聞き取れなかったこと

中川さん「確かに。でも方言を覚える

のは楽しいです」

桑原さん「スーパーマーケットの閉店時間が早いことも驚きですね」

中川さん「タヌキやキツネが急に道路に飛び出してくることも！」

「栗原市の印象はどうですか。」

長尾さん「これまでお会いした方はみなさん優しく接してください

てうれしいです」

桑原さん「うんうん。一度顔見知りになれば世話を焼いてくれますね」

「最後に栗原市への移住を考えている方へのメッセージ」

長尾さん「ご飯がおいしく暮らしやすいですよ。不安なことがあれば何でも相談してください」

中川さん「私は栗原で何がしたいのかが明確だったので、仕事を通じて方々と知り合う機会が多く、自分の居場所があるという安心感もあるので、飛び込んだ地域で楽しく暮らすことができています。移住をして終わりではなく、地域のコミュニティに入り、地域の方々と関係を築いていくことは、田舎で暮らしていく上で、すごく重要だと思いますよ。」

こぼれ 移住者インタビュー⑧

移住の理由は？

●畑を耕したり、森歩きをしたり、大自然に学ぶ時間をもつ生活が良かったから。春夏秋冬の移り変わりを心から楽しんでいます。（60代）

●夏秋いちご栽培地として環境条件が合うことです。また、被災時の人々との交流で得た得難い経験と協力関係に心が動きました。（60代）

移住してみたら驚いたことは？

●お茶っこ（ご近所づきあい）が必須！（40代）

●日本家屋の冬の寒さと夜空に見える多くの星です。（30代）

移住してみたら良かったことは？

●コンクリートに囲まれない生活！（40代）

●栗駒山に近いこと。近所に仲良しができたこと。（40代）

お気に入りの場所

●牛淵公園（お花見やパーベキュー、いも煮会など自然の中でレジャーを楽しめる溪流沿いの公園）（40代）